

入選

やさしさが教えてくれたこと

岡山県 粒江小学校

六年 石田 紗也

今日は始業式。長い春休みを終え、久しぶりに仲のよい友だちと会える日だ。私は今年から 6 年になり、同級生の副班長と、自分より年下の 8 人の面倒を見ながら登校しなければならない。クラス替えが楽しい気持ちと、初めての班長できんちょうしている二つの気持ちがぶつかりあい、いつもより早く起きてしまった。

そして、むかえた登校時間。いつもなら、前の人の背中を見ながら歩くあの時間が、後ろの下級生を見ながら歩く時間になっていた。そんなきんちょうの中に見えてきたのは、黄緑の服を着たあの姿。毎朝、横断歩道に立ってくれている安全パトロールの人だった。

私が 1 年生のころから、雨の日はレインコートを着て、新型コロナウイルスの感染者が増加してきても、マスク着用などの対策をして、ずっと私たちの安全を見守ってくれている。それに、低学年の子があいさつできるように、あいさつといっしょにじゃんけんもしてくれている。

そんなことも知らずに、私は安全パトロールの人のあいさつを無視していた。今思うと、とても悪いことをしたと思う。私は、安全パトロールの人のやさしさをむだにしていた。

そこで私は、安全パトロールの人に対する反省、そして感謝の気持ちを表せるように、月曜日から金曜日までの毎朝、できるだけ元気よく大きな声であいさつをするようにした。そうすることで、最高学年の私をまねをして、自分より年下の子たちもあいさつをしてくれると思ったのだ。

そして、私はあいさつに関する二つの目標を立てた。一つ目は、ろうかなどですれ違った友だちや先生にあいさつをすること。二つ目は 1 年生のくつ箱で、あいさつ運動をすること。安全パトロールの人のあいさつを無視してしまった反省から、今自分にできることをせいっぱいがんばった。

それから毎日、二つの目標が達成できるように実せんした。ろうかなどですれ違った友だちや先生は、あいさつを返してくれた。しかし、1 年生にあいさつをしても、恥ずかしがって、あいさつを返してくれる子がとても少なかった。

それでもあきらめずに、毎朝 1 年生のくつ箱の近くに立ち、あいさつすることを続けた。すると、あいさつを返してくれる 1 年生が増えた。私は、自分からあいさつをしてくれる 1 年生がいることがとてもうれしかった。

私は、安全パトロールの人のあいさつを無視してしまった経験から、二つの目標を立て、実せんしたことをきっかけに、あいさつに対する気持ちが大きく変わった。めんどくさいと思っていたものが、私を変える大きな存在に変わった。これは、安全パトロールの人のやさしさが教えてくれたのだと思う。

教わったこのことを大切にして、これからも二つの目標を実せんしていきたい。